



6月号

初夏の日射しを浴びて
キラキラ、キラキラ
葉っぱが光る。

深く息を吸い込むと
快い葉っぱの匂いが
胸いっぱい広がってくる。

ホースを持つ手に力が入り
ト口箱の土がはじけてしまわぬように
やさしく水をかけてやる。

ぼくらの緑の銀行に
一年中で一番美しい
緑の季節がやって来た。

昭和56年 6月 1日
編集／発行
岡崎市教育委員会



(緑の銀行—美川中)



思いつくまゝに

— 教育随想 —

井上恭夫

最近家庭内暴力・校内暴力が多くなつた。「教育心理」十二月号「校内暴力」、本年五月号「登校拒否」特集を連休中に精読しようと考え、両暴力の間に共通点はないだろうかと思つていたら、五月四日の朝刊に登校拒否と家庭内暴力の一人つ子が父に殺されたと報じられていた。稲村助教は神経症的傾向があり早く治療を受けるべきであったとし、高橋助教は高い教育を期待しすぎたのではないかと、親子で話し合う機会がほしかったと述べている。子供も学校生活が考える程甘いものではなかったと不満だった様だ。ここで考えるべきは家庭の機能は子供を社会の一員にする為の基本的訓練の場であり、両親の人格的結束をする重要な場でもあると言う事で従来と同じである。仮に家庭内暴力の子であつてもその子だ

けが異常なのではなく暴力行為の発生によつて家族内関係の障害や不適応状態が表面化した家庭の精神衛生改善への手掛りが発見されたとも言える。敢て言うならば不健康な精神衛生の家庭の犠牲になつた子とも言えるのではないだろうか。「手のかからぬ子であつた」、「子供を信用していた」等と答える親が少くない。暴力を治してほしいと言つてもある。話が進むにつれて、発生すべき基礎があつたと知るのである。生徒は劣等感や不適応状態から挫折感を強くし、いらいらで自暴自棄にさへなることが少くない。こんな時は家庭内暴力より登校拒否を起こし、次いで暴力になる例が少くない。校内暴力の中で一番指導困難なのは教師に向けられた例であらう。生徒は先生から自分の非を注意されても受けとめる

ゆとりがなく雷同者を求めてグループ化し、自分の行為を合理化しようと思せり、劣等感や欲求不満を暴力で解決することをむしろ「つっぱった状態」として顕示しようと思へるのである。中には集団暴行のみでなく、ラジオ等を持ちこんでの妨害から教師の注意を誘発させ混乱におとし入れる例もあると聞く。親もいつかは真面目になつてくれるであらうとか、学校が指導を旨くしてくれるであらうとし、防衛的軟化へ流れて行く場合もある。この様な暴力行為は家庭の状態、父母の養育態度に問題があるとされる例が増加していることは留意すべきである。この様に考えると家庭と生徒のみに責任がある様に誤解されるが、生徒の為に親、教師にも反省すべき点が少ないと思う。小学校教育のみならず幼児からの家庭教育に於ても家庭のルール、学校の規則更に社会的規範を軽視することなく守り実行する様に大人が率先すべきであると思う。子供の自主性と責任を尊重することはいいとしても諸規則を重視したり軽視する様では奨励をためらつてしまふ。教育をうけることの出来る機会を失わせたり、自分の主張を正しく評価されずに破棄されたりした後に謂うところの「おちこぼれ」少年と言つて犠牲にしない様に努力したいものである。妄言を弄した事をお赦し願うとともに「教育心理」誌を是非御参考になさつて下さる様併せて御願ひ致します。(岡田病院副院長)



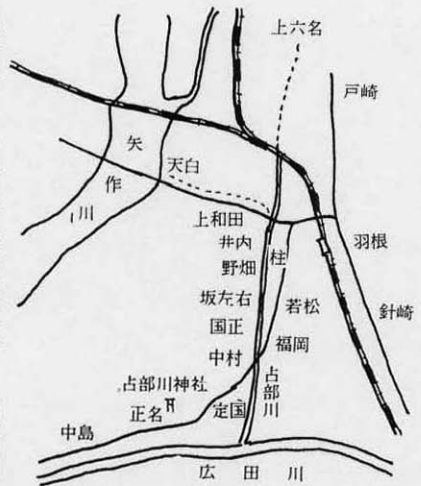
海外こぼれ話

ギヤクカルチャーシヨック

伊東 広悦

三年ぶりの日本は、寒さと物価高、人の歩く速さに驚かされた。何事もものんびりムードのインドネシアでは、言葉もおうようである。

三年前インドネシアのジャカルタに居をかまえた時、家の庭に赤い花が咲いていた。女中に「これはなんという名前のか」とたずねたところ「赤い花です」と返事。「それではとりの小さい花はなんという名まえか」とたずねると「それは赤い小さい花です」の返事。私が「それでは花の名前ではない。もつと別の呼び名があるはず」とたずねると、どうしてそんなことを知りたいのかと、かえつて不思議な顔をする。バリ島へ行った時ガイドが、「日本人の客は、花や動物の名前を聞きながら、何か理由があるのか」とたずねられたことがある。ちなみにインドネシアのスマトラ島にしかないオランウータンは、オランは人、ウータンは森の意味、で「森の人」である。学名〇〇とつけたがる日本とちがって、



— ふるさとの山河 —

占部川

占部のあたりを、昔は、比久良志の里と、いつていた。

貞観八年（八八六年）占部日良鷹が、三河守護としてこの地に赴任してきた時に、開墾を奨励して田畑を拓めさせていった。

この徳を慕い、いつしか、農民達は、占部の里というようになった。

占部には、川らしい川が一つもなく、一度水が出るど泥沼と化し水害となり、日照りが続くと、旱害となる土地柄であった。

特に慶長二年の旱天続きはひどく、五穀は実らず、田畑を捨て流浪する農民が続出するにまで、農民は細々と暮らした。見るにみかねた占部の住人、正名の野本新十郎（父は新平・徳川家々臣）と、中村の渡辺弥蔵（渡辺綱・治綱→徳川義直の近習の末孫）の両氏は、この害を除こうと天水分神の社殿を建て祈り続けた。そして、この両氏は、発起人として、

水路を開くことを計画し、慶長三年（一五九八）、岡崎藩主本多豊後守康重に計画願書を提出した。しかし、再三の願いも聞き入れられず、意を決して江戸に訴えた。

慶長八年（一六〇三）四月十五日、本多豊後守康紀より、占部川開き願済の証書が両氏の許へ届けられた。

両氏は意を強くして工事に着手した。水源になる福岡新田（岡崎市天白町）の村民は、水の逆流を恐れ、沿村の農民

は、田畑が減反することを不服とする苦情が続々と出された為、その都度、発起人として責任をとりつつ工事を進めた。

三嶋村大字福岡新田を水源として、糟海村→野畑→下和田→坂左右→国正→中村→定国→広田川と、約八キロメートルの工事は進んだが、工事完成の陰には犠牲となった多くの人々、減った田畑が約三百余石もあったと記されている。

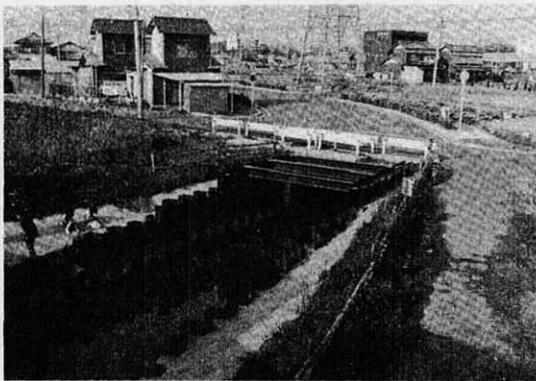
こうして苦難の末生まれたのが占部川である。莫大な工事費・補償費の為、両氏の私財はことごとく人手に渡り、貧困の末この世を去った。両家とも家を嗣ぐ者がなく絶家したという。

占部川の恩恵を受ける村民は、寛永元年（一五二四）に、正名にある社殿を改修して、初志貫徹した両氏を用水の守護神として祀ったのが占部川神社である。願済書の届いた日、四月十五日を祭礼の日と定められていた。

明治十八年国正稲荷に占部川用水之碑が建てられたが、今日は、社殿横に移転されている。

農民に富を与えた用水路も、東海道線以北は蓋がされ道路となり姿を消した。

（六南小 中川平八郎）



すべて物事がこの調子でかたづけられていく。今私の肩に逆文化ショックが重くのしかかっている。

（葵中）

パリのビトンとピロン

鈴木ゆき子

五時を三千秒過ぎても絶対に入ってもらえないと「グレイ」の日本人店員に聞き、たのまれたお土産を買うのもそこそこに、タクシーに飛び乗った。行く先はトランクやハンドバッグの専門店、「ピトン」である。

店内は予想以上に広く、客もかなり多い。しかし、そのわりに静かである。このあたりが、日本の店とちがうところか。トランク・バッグ・カサなどには、有名なXのマークしかついていない。

さっそく、目的のショルダーバックを選び始めた。予期していたものの、あまりの高額に友人と「エーツ、十五万円」と、驚きを口に出してしまった。とたんに、「ノンノシート」と非難されてしまった。その後は、たとえトランク一個三十万円であろうがビクツともせず、ただただ無言の行で、ショルダーバックを買わせていただいた。やけに緊張させられた「ピトン」での買い物だった。

反対に、「ピトン？ ノンノン。ピイローン」と、私が正しく発音するまで「ピロン、ピロン」を連発したパリの陽気な運ちゃんも忘れられない。

（梅園小）



新緑に輝く五月の日曜日、岡崎北部を流れる巴川の支流、郡界川を訪ねる。

桑原から川向にかけての県道に沿って豊かな竹林が続く。途中車を降りて耳を澄ますと竹林の向うにせせらぎが聞こえる。葎の間に間に大きな岩石が目にと留まる。その間を流れるの速い一条がきらきらと光る。川向に近づくと道は険しく狭くなり周りの山々は道にせまる。一条は幅一米ほどと思われるが、水音は緩むことなく近くの山々にこだまする。

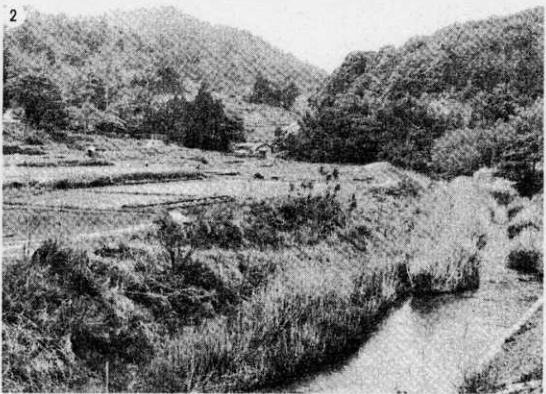
川向で車を降りる。聞こえるのはせせらぎと春せみの声。川に沿った山道を登り始める頃、赤さびた大きな水車が目に留まる。直径五米ほどはあろう。はるか山奥から続く水路の水は、今は水車に注

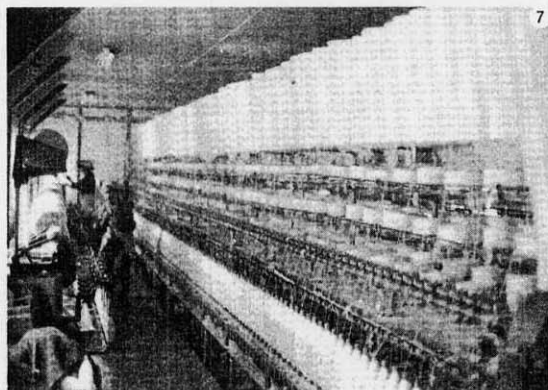
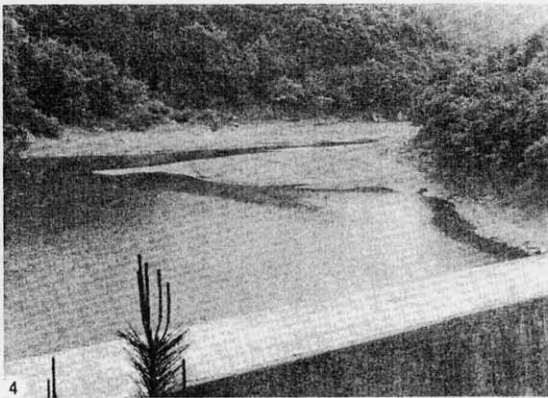
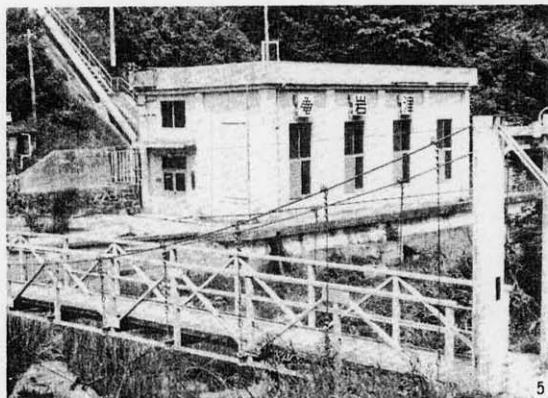


がれることなく手前で落ちる。戦後、ガチャ万景気をささえてきた水車も寂として残骸をさらしている。

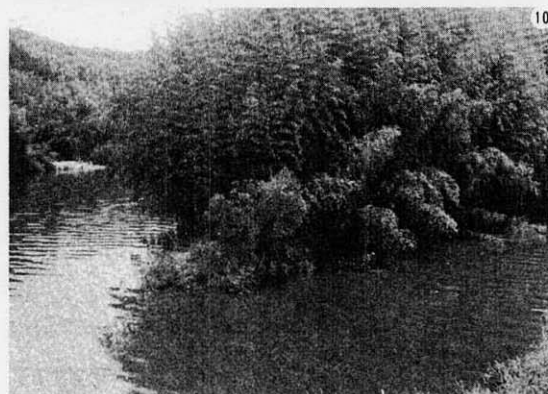
上流へと急ぐ。滝脇の近くで岩津発電所がみえる。愛知県最古の水路式発電所という。さらに進むと谷間に二疊の谷がある。急斜面の岩はだを水煙をあげながら流れ落ちる滝水は、よどみをつくり音もなく葎の中に消える。川幅は広くなりまた狭くなって下山へと続く。

岡崎を流れる郡界川をかい間みて、方丈記の一節を口ずさむ。「ゆく川の流れば絶えずしてしかもとの水にあらず、淀みに浮ぶうたかたはかつ消えかつ結びて久しくとどまるためしなし、世のなかにある人とすみかとまたかくの如し……」と。

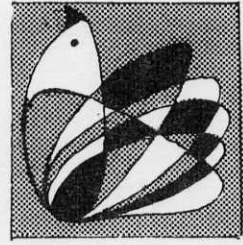




- ① 川向町美登山紡織に今も残る水車。省エネ時代にびったりと言うが、維持費や技術的な理由で今は動いていない。
- ② 岡崎市側では最上流の集落、日影町。
- ③ 景勝地二疊滝。春は山桜が美しい。
- ④ 日影ダムは水量調節のための大堰堤で保水量は百万トン。増水時には水がダムを乗り越えるという。
- ⑤ 中部電力で最も歴史の古い岩津発電所。
- ⑥ 川向橋。ここで県道は岡崎市側に渡る。
- 銅ぶき屋根の御鞆さんの社が印象的。
- ⑦ 郡界川流域は昔の名残りで紡織が多い。
- ⑧ 水車紡織の名残、堰と取水口。
- ⑨ 足助街道の交通量に耐えきれずおはらばこになった旧郡界橋から新橋を望む。
- ⑩ ここが河口。巴川との合流点。



教育日々



学区めぐり追跡

オリエンテーリング大会

大門小 河合美智代

「宝さがし、楽しかったよ。またやりたいな。」

「私は、カードを引く番になった時、ドキドキしちゃった。」
 「二十七位だったけど、みんな汗かിച്ചっちゃったよな。今度は優勝するぞ。がんばろうな。」
 「時間が遅くなっちゃって、途中で中から班長が、おんぶしてくれたよ。」

本校では、四年前から「みんなの時間」の活動を実践している。しかし、児童数の急増により、少しずつ活動がしにくくなってきた。

そこで、この時間の「手つなぎ集会」を、児童が楽しく活動



できるものということで、「学区めぐり追跡オリエンテーリング大会」を計画した。計画にあたって、活動内容・班編成・活動場所の設定を次のようにしてみた。

年間のため割り編成の男女混合のグループ二十班を、さらにそれぞれ二分して、四十チームとした。(一チーム十五、六名)

コース設定にあたっては、校外へ出て、学区内の公園四か所

(水郷公園・洲山公園・上里公園・勝蓮寺公園)と八剣神社・大円寺をチェックポイントとした。そして、そのポイントの一つである水郷公園では、「宝さがし」をすることにした。

全校で、オリエンテーリングをすることが初めてということ

も手伝ってか、リーダーを中心に、手を握り合って、大声でコールをしたり、頭を寄せ合って作戦を立てたりするなど、非常に興奮しながらスタートをした。

途中のチェックポイントでもそれぞれ手にしたカードを、みんなでのぞき込んだり、指示された内容の歌を大きな声で歌ったり、ゴミ拾いをするなど、一喜一憂しながら、次のポイントへと急いでいた。

そして、それぞれのチームごとに、汗を流し、手を取り合っ

てゴールインした時など、子ども達の目は異様に輝いていた。

ややもすると、マンネリ化する「みんなの時間」の活動も、創意を凝らすことによって、児童の動きを活発にし、この時間に対して手ごたえを持つことができた。

A子の成長

岡崎小 青山 道雄

遠足に行った時の出来事である。

「先生。きょうの弁当ね、志賀さんと内田さんと食べたよ。それでね、内田さんが、サンドイッチをくれたよ。先生にも、分けてあげたのに。」

A子は、いつになく私の顔をまじまじと見つめながら話しかけてきた。

「先生にも分けてくれればよかったのに。残念だったなあ。」

A子の瞳をまぶしく感じながら、私は照れかくしにこう答えた。その時のA子の顔は、友達といっしょに弁当を食べたという満足感に輝いていた。

この四月から担任しているA子は、友達と話したり、遊ぶことが少ない。登下校時にいじめられて、登校を拒否することもしばしばあったことなどを耳にしていた。軽度ではあるが言語障害等があり、学習成績は振わない。また、周囲も特別扱いをしたことなどにより、A子は、自分に自信が持てなくなっていた。

学級では、一か月間の目標を立て、自己評価をさせている。A子は、この目標として、

- 一、強い体をつくる。
- 一、友達をつくる。
- 一、友達をつくる。

の二つを考えた。これがA子の到達できる精いっぱい目標であろう。

A子は、遠足の前にこんな作文を書いてきた。

明日は楽しい遠足です。

わたしは、みんなといっしょにお弁当を食べたり遊んだりしたい。強い体をつくるため、なわとびも持っていきます。……

遠足の当日、A子は友達から離れまいと、必死になってみんなといっしょに弁当を食べ、なわとびで遊んでいた。

友達と打ちとけられた喜びがA子の目に表れていた。

これに気をよくしたのか、帰途、A子の優しい心づかいが見られた。友達と水筒のお茶を分け合ったり、疲れきった子の手を引いて歩く姿さえ見られた。

学校に着いた時、A子の体全体に、自分に自信が持てたという喜びが表れていた。





第八回 岡崎市民大学開講

多彩な講師陣決まる

第八回岡崎市民大学は、市民
大学運営委員会の手によって、
このほど開講日程と講師が左記
のように決定されました。

市民のみなさんの御期待に応
え、著名な講師を今回もお招き
することになりました。

◆期日と講師

①7月19日(日)

京都大学教授
河合 隼雄氏

・研究分野・主な著書
臨床心理学 “家族関係を
考える” “女性社会日本の病
理” “コンプレックス” 他

②8月2日(日)

分子科学研究所教授
諸熊 奎治氏

・研究分野・主な著書
コンピュータ研究
“研究分野・主な著書
“備人の檻” “沖田総司” “北
条早雲” 他

③8月9日(日)

作家
山崎 朋子氏

・研究分野・主な著書
女性史研究 “愛と鮮血”
“サンタカンの墓” 他

④8月16日(日)

お茶の水女子大学教授
外山滋比古氏

・研究分野・主な著書
“知的創造のヒント” “フイ
ナールの発想” “男の神話学”
他

⑤8月23日(日)

作家
日本ペンクラブ常務理事
早乙女 貢氏

・研究分野・主な著書
“研究分野・主な著書
“備人の檻” “沖田総司” “北
条早雲” 他

⑥9月6日(日)

前NHK解説委員
家城啓一郎氏

●会場 岡崎勤労会館

●開講時間 午前九時三十分受
付、十時開講、十二時終了

■教職員の県外研修

市費による補助制度ができて
十年目を迎える教職員県外研修
は、次のように計画が決定された。

▼参加者数

校長 一〇名 二泊三日

教頭 一〇名 二泊三日

教諭 二七〇名 二泊三日

▼研修参加者の基準

①校長・校長会の参加計画に
よる。②教頭・教頭会の参加
計画による。③教諭・各校の
参加計画による。

▼研修実施期間

6月から57年1月末日まで

▼特別研修班

会津若松・松江・アナライ

作中学校

◇岡崎の学校保健 第三二号、
岡崎市教育委員会、岡崎市教
育研究所、B5、二九七頁

◇アイデア集(第一集) 現職教
育算数数学部、A6、三三頁

◇栄光への道(2) 習字五年連続
知事賞、B5、一九七頁、矢

◇私達のふるさと中之郷 A5
三六四頁、岡崎市中之郷町

◇9月6日(日)

前NHK解説委員
家城啓一郎氏

●会場 岡崎勤労会館

●開講時間 午前九時三十分受
付、十時開講、十二時終了

■教職員の県外研修

市費による補助制度ができて
十年目を迎える教職員県外研修
は、次のように計画が決定された。

▼参加者数

校長 一〇名 二泊三日

教頭 一〇名 二泊三日

教諭 二七〇名 二泊三日

▼研修参加者の基準

①校長・校長会の参加計画に
よる。②教頭・教頭会の参加
計画による。③教諭・各校の
参加計画による。

▼研修実施期間

6月から57年1月末日まで

▼特別研修班

会津若松・松江・アナライ

◇岡崎の視聴覚教育 第二二号
岡崎市視聴覚ライブラリー、
B5、一〇八頁

◇放送番組と学習指導関連表
岡崎市視聴覚ライブラリー・
現職教育視聴覚部、九分冊
(小一〜六中社会、中理科、
中英語)

ザー研修東京・奈良・姫路
の五班を編成

■ベルリン青少年吹奏楽団
演奏会

とき 八月十六日(日)

開演 午後六・三〇

ところ 岡崎市民会館大ホール

曲目 ・エグモンド序曲

・ベートーベン

・皇帝円舞曲

——シュトラウス

・ワルトブルク城への入

場行進曲—ワグナー

など。

ベルリン青少年吹奏楽団は、
伝統を誇るドイツの主な三十の
吹奏楽団に所属する二千名の青
少年の中から演奏・健康・勉学・
品行など、厳しい規程に合格
した最優秀ソリスト四十名から
なる楽団です。

その演奏は、柔らかく安定した
音の響きと、きめ細かなシンフ
ォニクな、みごとなアンサン

ブルに特徴づけられるとのこと
です。

東海地方では、岡崎だけの公
演です。岡崎のスクールバンド
も、共演しようと張り切って準
備にはいつています。

■県教育委員学校訪問
五月号に記載のほか次の学校
を訪問される。

保健体育課—東海中

昭56年度月報編集委員

・横井 滋 (城北中)

・佐々木秀芳 (竜谷小)

・和出 昭夫 (六北小)

・畔柳 正弘 (河合中)

・高橋 岩雄 (甲山中)

・成田 邦彦 (六美中)

・平野 安世 (矢北小)

・大山 紘司 (細川小)

・有我 亮介 (緑丘小)

・清水 弥生 (根石小)

・竹内 昭次 (香山中)

・梶尾 長夫 (竜海中)

・加藤 憲尚 (城南小)

・八田 昌子 (三島小)

・柴田 隆夫 (葵 中)

・杉本 佳子 (東海中)

・早川 正春 (矢作中)

・野々山周次郎 (六名小)



きびう 黍生の地蔵

所在地 岡崎市才栗町黍生

少年自然の家の南の尾根道をハイキングコースに従って東へ享成牧場の柵をすぎたあたり、照葉樹の木陰に一体の地蔵様が祀ってある。

身の丈二尺あまり、寛政八年の文字が読みとれる。めったに人の通らない山道の辻に、ひっそりと祀られた地蔵様なのに、いつ通っても掃除が行きとどき生花がたてられている。よほど有難い仏様であろうか。

往時、この辻は、道根往還から外れて古部、切越をぬけ、寺野(額田郡)へ通じる道があり

この道に沿って民家が何軒も建っていたという。中でも黍生の聖洞寺は、高田派の格式のあるお寺で、法要の時には参詣者が二・三百人はいいたという立派な寺院であったそうだ。

この聖洞寺を中心に昭和の初期には四つの小字に十軒の民家があったが、今ほどの家も山を下りてしまい、昭和四十年代まで残っていた一軒を最後に今は幻の部落となってしまった。

二百年の、世の移り変わりを見てこざる地蔵様、何とも素朴で安らかなお顔である。

●カット

甲山中 太田正文

この本を

- 大人のしつけ
紳士のやせがまん 高橋 義孝
新潮社 ¥ 1,000
- 一年諸事雑記帳
(上) (下) 加藤 秀俊
文芸春秋 各¥ 400
- 城と国家
小学館 上川 春平
¥ 880
- 聖徳太子
憲法十七条II 梅原 猛
小学館 ¥ 1,400
- 作家点描
講談社 井上 靖
¥ 1,300
- 地図の風景
堀 淳一 山口 恵一
愛知・岐阜 龍瀬 良明
そしえて ¥ 2,000
- 窓ぎわのトットちゃん
講談社 黒柳 徹子
¥ 1,000
- 凍々と生きる
忘れ得ぬ人々 紀野 一義
角川選書 ¥ 840
- 般若心経を読む
講談社 紀野 一義
¥ 390
- 聡明な女の
人間関係 12章 鈴木 健二
主婦と生活社 ¥ 780

岡崎の最北端を流れる郡界川を訪れた。川のあちこちに咲く野生の藤の花の美しさにしばし見とれ、額田と東加茂の郡界であった頃のようすを思いめぐらせた。このあたりは、昔ガラ紡が盛んであちこちに水車があったとか。今はさびついた水車が一枚だけ残っている。この水車が消える日も近い。

少年自然の家に出かけた。

改めて五月のすみきった空とまわりの緑の調和の美しさを味わった。

開所以来、満四年たち延約二十万人の利用者があったとのことである。

作業職員の方の苦勞話を聞く機会を得た。陰の力になってくださることを感謝するとともに自然の力の大きさに驚いた。

オアシス

「あつ、抜かれる。あと少しだ。がんばれ。」と、思わず心の中で叫んでしまった。小運動会での優勝のかかった学級対抗リレー。先行策が効を奏し、バトンタッチの失敗もなく、作戦成功と思つたその一瞬であった。結果は、胸ひとつの差で優勝。子どもたちのうれしそうな顔。さあ、今年も、がんばるぞ。

寸暇を惜しんでの日記の朱書き入れ。空き時間、十分の放課をつぶして。帰りに一斉に渡す。にやっとなる子、うなずいている子、ちらつとこちらをみる子。それらの表情の数々は、子ども一人ひとりと先生とそして親との絆を深く感じさせる。

明日はなにを書いてくれるかな。